

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（白糠町：学力）

白糠町教育委員会

■ 調査概要

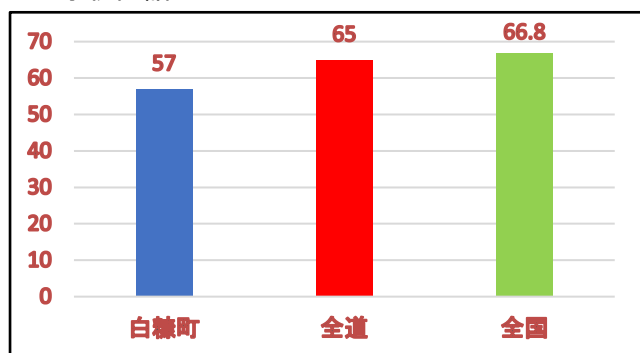
- ◆調査日時：令和6年4月～5月
- ◆調査事項：①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕、質問調査
②学校：質問調査
- ◆調査人数 ※注：国語を受けた人数

	白糠	茶路	庶路	合計
小学校第6学年	11	3	16	30
中学校第3学年	25	5	14	44

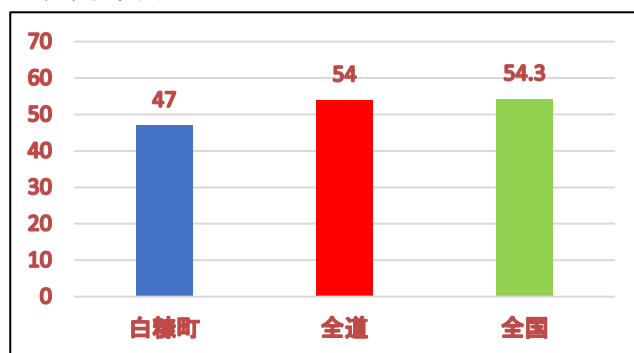
■ 教科に関する調査結果概況

- ◆平均正答率

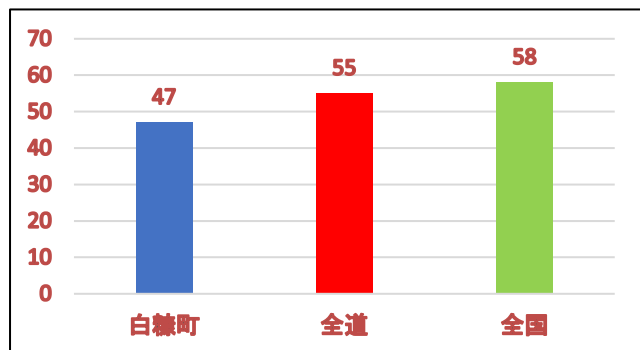
小学校国語



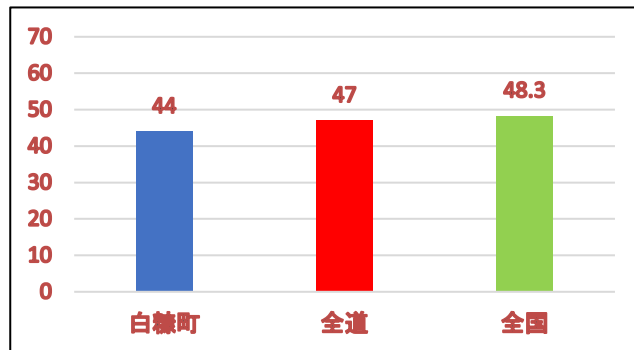
中学校国語



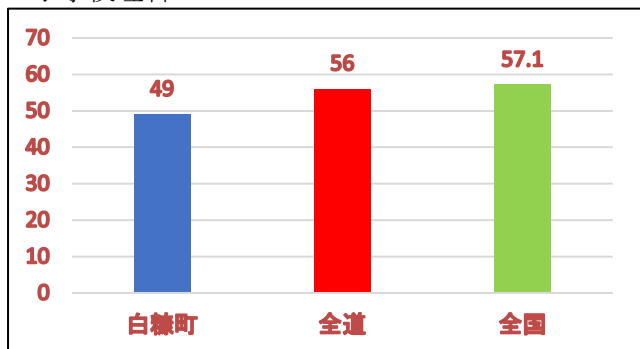
小学校算数



中学校数学



小学校理科



中学校理科（IRT スコア集計値）

	平均IRTスコア	標準偏差
白糠町教育委員会	501	122.5
北海道（公立）	505	126.5
全国（公立）	503	124.0

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果、本町の小中学生は全教科で全国・全道平均を下回りました。特に小学校算数などで課題が大きく、基礎学力の定着に向けて学校全体で取り組んでいくことが大切になってくると考えられます。

【教科別の主な課題と強み】

<小学校>

国語

課題：文章を読んで内容を的確に捉える読解力（「読むこと」領域）と、複数の情報から必要な事柄を整理・比較する力に課題が見られます。

強み：音声言語によるコミュニケーション能力（「話すこと・聞くこと」）は、全国平均に近いレベルにあります。

算数

課題：自分の考えを説明する記述式の問題の正答率が低く、「思考・判断・表現」を問う問題が苦手です。

強み：内容領域の「測定」では、北海道の平均正答率を上回る結果でした。

理科

課題：算数と同様に、観察・実験の結果から理由を考えるような記述式の問題が課題です。

強み：物理分野である「エネルギー」領域が比較的よくできています。基礎層と中間層の割合が全国平均を大きく上回り、特に中間層は全国の約2倍に達しており、応用力の育成が求められます。

<中学校>

国語

課題：小学校から引き続き、自分の考えを記述する力（「書くこと」）に加えて、漢字や文法などの「知識及び技能」の定着率の低さも問題です。

強み：文章の内容を正確に読み取る力（「読むこと」）は、全国平均に近い水準です。

数学

課題：「データの活用」領域や、思考力・表現力を問う記述式の問題が不得手です。

強み：選択式の問題では全国平均を上回っています。また、基本的な計算や用語の理解を問う「知識・技能」や「図形」の領域は、北海道の平均と同等もしくはそれに近い正答率です。

理科

課題：平均 IRT スコアが全国・全道を下回っています。

強み：学力上位層であるバンド4・5の割合が、全国平均とほぼ同じです。また、学力中位層にあたる IRT バンド3の生徒が厚い層を形成しています。